



# 太田 真一

埼玉支部 支部長

競輪は特殊な事業ですけれど、その補助金が一般の方の役に立つような研究に使われているのはとてもいいことですね。

今回は初心者向けのスポーツ自転車開発のお話を伺いに、埼玉大学大学院を訪問しました。同行していただいたのは埼玉支部の支部長に就任されたばかりの太田真一選手です。研究についての感想や、支部長になられた思いなどお聞きました。

## 競輪ってこんなこと やってているんだ!!

人任せではなく、自分でやる時がきたんだと思いました。選手と支部の仕事の両方を一生懸命やって行きたいです。

— 初心者の方でも快適に楽しめるスポーツ自転車開発のお話でしたが、どんな感想を持たれましたか。

「競輪はある意味特殊な事業ですけれど、その補助金がこういう一般の方の役に立つような研究に使われていることを知って、とてもいいことだなと。初心者やお年寄りにも乗りやすい自転車が普及して、もっと自転車人口が増えて行けばひいては競輪のほうにも興味を向けてもらえるきっかけにもなるかなと思いますし」  
— 今回新たに支部長に就任されたわけですが、その思いとは？  
「全国の支部長と比べると年齢的にはまだだいぶ若いほうなんですけれど、やっぱり競輪界がこのままどうなっていくのか、競輪が大好きだからこそもっと良くして行きたいという思いがあって、もう人

任せじゃなくて自分でやる時がきたのかなという強い気持ちですね。(支部長の仕事)レースの負担になるんじゃないかと、色々な思いはありましたけど、山口幸二さんがグランプリを獲って、自分より

年上の人がやれるんだから、できないことはないんだと。自分に言い訳せず、選手と支部の仕事の両方を、一生懸命やって行こうという気持ちで支部長になりました」  
— 埼玉支部をどんなふうにして行きたいと考えていますか。

「埼玉は選手の人数も多いんですけど、そこをうまくまとめながら、競輪界の中で埼玉支部はこんなことをやっているんだというのを発信して行けたらと。やっぱりお客様あつての競輪ですから、一人一人のお客様を大事にして、また新規のお客

様を増やして行くために何をしたらいいのか、色々考えながらやって行きたいですね。ガールズケイリンも始まって、埼玉にも選手が2人いるし、今後は大宮、西武園でも開催してもらえるようにできたらいいなと思っていますけど」

— 選手としての目標も聞かせてください。

「近年成績はちよつと良くないところもあるんですけど、僕はまだ全然諦めていないですし、GIレースで優勝したいというのはもちろん、もう一度グランプリに出るという目標があります。僕がグランプリを獲った時に山口幸二さんも一緒に走っていて、今はだいぶ差ができてしまいましたけど(苦笑)、まだまだ戻れると自分では思っているんです。山口さんも頑張っているんだし、僕も頑張らないですね」

— ファンの皆さんへメッセージを。

「支部長職に就任したばかりで、まだまだまだビジョンだとか明確なことは言えないんですけど、支部の仕事の時は支部の仕事、レースを走る時はレースを生懸命やります。走る限りはお客様の車券に貢献できるように頑張りますので、応援していただければと思います」